

### 研究課題③：寄生虫(クドア・セプトンククタータ)に対するリスク管理に必要な技術開発

経費限度額：9,000 千円（平成 24 年度）

研究期間：平成 24 年度～平成 26 年度

#### 背景、研究の必要性（国際情勢、緊急性等）

平成 23 年 4 月に開催された薬事・食品衛生審議会食中毒・乳肉水産食品合同部会において、生食用生鮮食品による病因不明の有症事例について、ヒラメの寄生虫であるクドア・セプトンククタータ（以下「クドア」という。）の関与の可能性が高いとする研究結果が報告されました。同年 6 月には、同部会により予防対策等の提言が取りまとめられ、今後の課題として、ヒラメの養殖段階でのクドア保有稚魚の排除、飼育環境の清浄化、養殖場における出荷前のモニタリング検査等の対策が必要であるとされました。

クドアは、平成 22 年に確認されたクドア属の新種であり、その生活環や感染経路などは不明です。これまでの研究成果として、顕微鏡検査（成魚のみ）及び PCR 法によるクドア検出法が開発されています。しかし、特に稚魚ではヒラメ体内におけるクドアの分布が不明なため、分布が濃密な部位を用いた効率的な検査が行えません。また、凍結又は加熱により失活させることができることが報告されていますが、これらの方法ではヒラメの商品価値が下がるため、実用的な技術とするための追加研究が必要です。

クドアによる食中毒発生リスク低減を図るため、クドアの感染経路や生活環に応じた感染防除策の確立、種苗導入時や出荷時等の効率的な検査法やヒラメの商品価値を低下させないような失活方法の開発等を行う必要があります。

#### 研究内容

##### 1. ヒラメの種苗生産・養殖施設等でのクドアの感染防除策の開発

（具体的内容）

種苗生産・養殖施設等でのクドアの感染経路及び生活環を解明します。これで得られた知見に応じて、飼育方法や飼育条件、供給水のろ過や殺菌、環形動物の除去等、最も効果的な感染防除策を開発します。

##### 2. 感染したヒラメ排除のための効率的な検査法等の開発

（具体的内容）

ヒラメ稚魚の体内におけるクドアの分布を明らかにします。これにより分布が濃密な部位を用いた効率的な検査法や手順を開発します。また、ヒラメ成魚については食中毒の原因となるような個体を出荷前に排除できる効率的な検査法や手順を開発します。

##### 3. 商品価値を低下させずにクドアを冷蔵等により失活させる処理方法の開発

（具体的内容）

生食による消費が好まれるヒラメの商品価値を低下させないために、冷蔵等によるクドア胞子の失活法を開発します。

#### 4. ヒラメ以外の魚種におけるクドアの感染状況調査

(具体的内容)

養殖ヒラメ以外でクドア感染の報告があるメジマグロ等の魚種を対象に、クドア感染の状況について調査します。

#### **達成目標 (行政施策への貢献)**

種苗生産・養殖業者向けにクドア感染の防除対策ガイドラインを作成し、関連事業者、地方自治体等への情報提供及び指導に活用。